

# 高度循環社会の実現

日立は、お客様や社会とともに、事業を通じて、水・資源循環型社会の構築に最大限貢献します。海水淡水化を含む、造水から下水に至る一連の水処理技術のさらなる進化により、水の循環利用を拡大していきます。

また、日立が使用する水・資源の利用効率を2050年度までに2010年度比で50%改善します。この目標の達成に向けて、長寿命・省資源のモノづくり、製品の回収やリサイクルの徹底、生産工程での水使用量の削減・浄化・再利用などを進めていきます。

## 水・資源の利用効率の向上に向けた取り組み

### 水の有効利用

日立は、製品の洗浄・冷却や塗装などの生産プロセスで水を使用しています。それらの水を有効に利用するために、流量計の設置箇所を増やして管理レベルの強化を図るほか、廃水処理設備を設置して循環水の利用率向上や、事業所内の給水設備の更新などの施策により水使用量の削減を推進しています。

水問題の深刻度は国や地域によって違いがあるため、地域の水リスクに応じてそれぞれ対策を講じており、中国、インド、フィリピンの事業所では、漏水対策を強化するなど水使用量削減に努めています。

### 廃棄物発生量の削減

2016年度は、廃棄物有価物発生量原単位を基準年度比で12%改善するという目標を掲げ、改善率13%と目標を達成することができました。

各事業所では、製造工程で発生した副産物や端材の事業所内再利用や輸送にかかわる梱包材の使用抑制により廃棄物の発生量削減に努めました。また埋め立て処分量を限りなくゼロに近づける「ゼロエミッション」活動により、2016年度は98事業所がゼロエミッション達成\*事業所となりました。

#### 水使用量原単位



#### 廃棄物有価物発生量原単位



\* ゼロエミッション達成：日立グループでは、当該年度最終処分量（埋め立て処分量／廃棄物有価物発生量）0.5%未満と定義

ゼロエミッション達成事業所一覧

<http://www.hitachi.co.jp/environment/activities/data/zeroemission.html>

## 高度循環社会の実現に貢献する事業

### グローバルに水資源を守る水ソリューション

地球上の表面の約70%が水におおわれているにもかかわらず、人間が飲める状態の水は、わずか0.01%程度にすぎません。一方で、水への需要は世界的に高まる傾向にあり、2050年には世界人口の40%以上が深刻な水不足に直面すると予測されています。水総合サービスプロバイダーをめざす日立は、これまでに日本国内では浄水場約700カ所、下水処理場約900カ所、海外では世界約40カ国・地域で200サイト以上への豊富な納入実績があります。こうした実績のもと、さまざまな水インフラをグローバルに提供しています。

現在は、上下水道システム、海水淡水化プラントをはじめIoTを活用した水道事業の最適化・高効率化ソリューションの提供を進めています。例えば、省エネ型海水淡水化プラントでは、

下水処理水を海水淡水化の希釈水に使用することで海水塩分濃度を下げ、脱塩工程に必要なポンプ圧力を抑制することで、約30%の省エネルギーを達成しています。

